

(平成18年12月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>12月期の野菜の市況については、一部の品目を除いて暖冬の影響から重量品目の生育が順調で、共通して大玉となり豊作傾向で推移した。しかし、大玉傾向のため加工業務用の歩留まりがよく、重量野菜の荷動きが弱い状況が生じた。加えて、鍋商材の販売環境も悪くなり、価格面で伸びなかった。</p> <p>したがって、産地によっては生産調整が行われ、また、出荷が中央から地方へ分散するなど豊作傾向ながら集荷の困難な状況となったことから、結果として、入荷量は、前年並みとなった。</p> <p>価格は、暖冬による一般消費の停滞と業務需要の荷動きが鈍かったことから期間を通じて安値基調で推移し、最終的には前年同期を7%下回った。</p> <p>品目別には、西洋にんじん、キャベツ、ホウレンソウ、レタス、トマトが入荷増の単価安で推移し、かぶら、キュウリ、ピーマン、ばれいしょは入荷減の単価高となった。長大根、白菜は入荷量・価格ともに前年を下回った。なすは、入荷量・価格ともに前年を上回った。たまねぎは、入荷が前年並みながら単価安であった。</p> <p>根菜類は、入荷が前年並みで、価格は8%安となった。 葉菜類は、入荷が前年並みで、価格は28%安となった。 果菜類は、入荷が16%増加し、価格は4%安となった。 土物類は、入荷が4%減少し、価格は8%高となった。</p>
果 実	<p>12月期の果実の市況については、主力品目のみかんが裏年にあたることに加え、メロンの作付けの減少、柿の虫害の発生などによって、大きく入荷量し、前年同期を23%下回った。</p> <p>価格は、入荷減から前年同期を45%上回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が29%減少し、価格は71%高となった。 りんごは、入荷が8%減少し、価格は16%高となった。 柿は、入荷が29%減少し、価格は62%高となった。 いちごは、入荷が32%増加し、価格は23%安となった。 メロンは、入荷が5%減少し、価格は10%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】</p> <p>長大根</p> <p>かぶら</p> <p>洋人参</p>	<p>徳島，和歌山，長崎，千葉を主力とする入荷。各産地ともに天候に恵まれたことから生育は良好であり，暖冬傾向であったために太物が多く，単価面で伸びず生産調整もあったことから，入荷に影響することとなった。結果的に入荷量は，前年同期を5%下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら太物が多いことに加え，暖冬により需要が弱かったことから，前年同期を35%下回った。</p> <p>京都を中心とする入荷。各産地ともに天候に恵まれ，生育は良好であり，前進出荷となったことと下位等級の生産調整が行われたことから，下旬にかけて入荷量が減少した。結果的に，前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって，前年同期を46%上回った。</p> <p>長崎，鳥取，千葉，愛知を中心とする入荷。各産地ともに生育よく，太物中心に順調な入荷となった。結果として，前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって，前年同期を18%下回った。</p>
<p>【葉菜類】</p> <p>はくさい</p> <p>キャベツ</p>	<p>岡山，鹿児島，和歌山，愛知を中心に兵庫，茨城の残量の入荷。各産地ともに，播種，定植後からの気象条件により，初期成育から旺盛となり，大玉傾向での先進出荷となった。しかし，暖冬による需要の低迷から中央市場への集中を避け，分散型の出荷となったため，結果として前年同期を14%下回った。</p> <p>価格は，暖冬により加工業務用・一般消費ともに伸びず，入荷量は少ないものの結果として，前年同期を32%下回った。</p> <p>愛知，茨城，滋賀，兵庫，和歌山を中心とする入荷。各産地ともに天候に恵まれたことから生育は良好であり，暖冬傾向であったため，大玉傾向で前進出荷となった。結果として前年同期を6%上回った。</p> <p>価格は，入荷量が多かったことに加えて，加工業務関係が大玉による歩留まりの良さから使用量が減少し，また，一般消費も動きが悪く，結果として，高値で推移した前年同期を66%下回った。</p>

ほうれんそう	<p>京都を主力に徳島，群馬，茨城，滋賀からの入荷。各産地ともに高温の影響から豊作傾向となり，前進出荷となった。結果として，入荷量は前年同期を24%上回った。</p> <p>価格は，野菜全体の価格低迷の影響から安値となり，月末に若干持ち直したものの，結果として前年同期を37%下回った。</p>
レタス	<p>兵庫，徳島，茨城を中心に九州産地からの入荷。各産地ともに生育・作柄は良好で，極めて大玉傾向での順調な出荷となった。結果として，入荷量は前年同期を9%上回った。</p> <p>価格は，入荷量が多かったことに加えて，加工業務関係が大玉による歩留まりの良さから使用量が減少し，また，一般消費も動きが悪く，結果として，高値で推移した前年同期を33%下回った。</p>
<p>【果菜類】</p> <p>きゅうり</p>	<p>宮崎，滋賀，高知を中心とする入荷。各産地ともに11月下旬の曇天・日照不足の影響から着花不良が発生し，入荷量が減少した。結果として，入荷量は前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は，入荷減による品薄から，総じて高値基調となり前年同期を38%上回った。</p>
なす	<p>徳島，高知，岡山を中心とする入荷。各産地とも天候に恵まれ，生育も良好で順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら，きゅうりの高騰により，漬物の代替商材として需要が高まり，結果として，前年同期を10%上回った。</p>
トマト	<p>熊本，滋賀，京都，福岡を中心とする入荷。各産地とも天候に恵まれ，生育も良好で順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を43%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を27%下回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎，高知を中心とする入荷。両産地ともに，11月下旬から12月上旬の日照不足の影響から入荷量が減少し，結果として，入荷量は前年同期を12%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を21%上回った。</p>

<p>【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)</p> <p>たまねぎ</p>	<p>北海道，長崎を中心とする入荷。北海道産の入荷少なく，大玉中心に価格が高騰した。入荷量は前年同期を4%下回った。 価格は，入荷減と大玉価格の高騰によって，前年同期を10%上回った。</p> <p>北海道を中心に兵庫からの入荷。北海道は，やや小玉傾向であったが，順調な入荷となった。兵庫産の冷蔵品はやや入荷が少なかった。結果として，入荷量は前年並みとなった。 価格は，暖冬による野菜全般の安値基調から，一般消費が伸びず，結果として，前年同期を13%下回った。</p>
--	--

主要品目（果実）	市況の概況
普通みかん （早生含む）	<p>和歌山を中心に福岡，愛媛からの入荷。各産地ともに裏年にあたることと早魃による小玉傾向から，入荷量は前年同期を29%下回った。</p> <p>価格は，入荷量が少ない中で，前年同期を72%上回った。</p>
サンふじ	<p>長野，青森，岩手，秋田を中心とする入荷。各産地ともに中玉小玉中心の状況の中，大玉や上級品への需要が高く，青森産を中心に入荷量はやや少なく，入荷量は前年同期を12%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により前年同期を16%上回った。</p>
富有柿	<p>奈良，福岡を中心に京都からの入荷。福岡産は台風の被害から，生産量が減少し，また，奈良産，京都産はカメムシの発生によって正品率が悪く，出荷量が減少した。結果的に，前年同期を31%下回った。</p> <p>価格は，入荷減から前年同期を137%上回った。</p>
いちご	<p>佐賀，熊本，福岡，長崎，愛媛を中心とする入荷。今年の作型の関係から11月は出遅れたが，12月は各産地ともに出揃い順調な入荷となった。結果的に，前年同期を32%上回った。</p> <p>価格は，入荷減から前年同期を23%下回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡を中心に高知，熊本，宮崎，愛知からの入荷。宮崎産の作付面積が減少したため，入荷量は前年同期を9%下回った。</p> <p>価格は，入荷減と年末需要に支えられ，前年同期を12%上回った。</p>